



# 広報

www.jalc.or.jp

第 454 号

2012 年 1 月 1 日

おかげさまで創立40周年を迎えました

# 日造協

## 新春特別号

創立40周年を迎え飛躍の年に  
「新生」日造協への提言

発行／社団法人日本造園建設業協会（Japan Landscape Contractors Association） 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03（5684）0011 FAX03（5684）0012



国指定天然記念物 川棚のクスの森 天を覆いつくすように枝を広げる一本の樟（クス）の巨樹で、まるで森のように見えることから、こう呼ばれています。日本三大樟樹の一つで、樹齢約1000年、目通り幹周り11.2m、樹高27m、枝張り東西58m、南北53m。（山口県支部長 高畑 満夫）

# 謹賀新年

## 2012年

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、それぞれの地域で新たな希望をもって輝かしい新春をお迎えになられたことと思います。当協会は、昨年11月に創立40周年を迎えました。これも国土交通省を始め多くの関係機関の方々に長年にわたってご指導、ご支援をいただいた賜物と心から感謝申し上げます。

この節目の年の3月11日に東日本大震災が発生し、広域にわたって甚大な被害がもたらされました。沿岸部に巨津波が押し寄せ、一瞬のうちに市街地や美しい海岸の松原などが消失し、また多くの尊い人命が奪われました。このことは決して忘れ去ることはできない出来事です。復興計画が着実に実行に移され、被災地の一日も早い復興と失われた緑豊かな美しい景観が再び蘇ることを祈念しております。

日造協では、地震発生直後から被災地、被災会員への支援活動や日本造園学会と連携した復興支援調査、岩手県支部からの要請による陸前高田の「希望の松」の保存活動への技術的支援などに取組んでまいりました。今回の貴重な経験を活かし、災害時における造園建設業ならではの支援活動ととりまとめ、各地域において防災協定の締結の促進を図りたいと思っております。

当協会は、今年4月を目途として一般社団法人へ移行するために認可申請

手続き中で、認可後に新たな一歩を踏み出すこととなります。今、わが国の経済社会全体が大きな転換点を迎えており、造園建設業を取りまく状況は非常に厳しいものがあると認識しております。このような時にこそ造園建設業の将来の発展を目指し、常に時代のニーズや課題を的確に捉え、社会の変化に即応できる態勢を整えておくことが重要であります。

新法人への移行申請にあたり、総務委員会を中心にご検討いただくとともに、本部と総支部・支部との交流会などの場で会員の皆様から多数のご意見をいただきました。有難うございました。

(社)日本造園建設業協会 会長

藤巻 司郎



年頭の辞

## 魅力ある造園建設業をめざして

40年前に日造協の創設に尽力された先人達の「初心」と「志」を改めて思い起こし、魅力ある造園建設業の未来を皆様と一緒に目指すことに全力を注いでまいりますので、本年もよろしく願いたします。

# を 迎 え 飛 躍 の 年 に

## へ の 提 言

新しい年を迎え日本造園建設業協会の皆様にご挨拶申し上げます。

### 被災地の着実な復興に向けて

国土交通省大臣官房審議官 (都市生活環境担当) 小林 昭



日頃から協会の皆様方には公園・緑化事業の推進について何かとご尽力いただいております事、御礼申し上げます。

昨年は未曾有の災害の年でありました。とりわけ、3月11日に発生した東日本大震災からの各都市の復旧・復興については、震災以来国土交通省をあげて取り組んでおります。昨年5月の第1次補正予算では都市局として津波被災市街地復興手法調査を計上、被災各自治体の被災現況の調査分析をおこなうとともに、市街地復興パターンの検討など、政府として7月にとりまとめた復興基本方針に基づき、被災自治体をサポートしてまいりました。また特に公園

緑地に関しては緑地による津波被害の軽減や災害廃棄物の緑地造成への活用などについて各方面の専門家からなる検討委員会を組織し検討をすすめる10月には復興に係る公園緑地整備の基本的考え方をとりまとめたところでありました。

11月末に成立した第3次補正予算では、復興のための土地区画整理事業や防災集団移転事業等の復興地域づくりに必要な使途の自由度の高い資金として復興交付金など必要な予算が計上されるとともに、あわせて12月には震災復興特区法、津波まちづくり法などが国会で成立、被災自治体における土地利用再編の特例など復興事業の支援策がそろいました。被災地の状況には大変厳しいものがありますが、

ですが、今後、地域での合意形成などの課題を経て順次復興まちづくりが進んでいくことを願うものであります。貴協会におかれても、3月以來いろいろな形で被災者・被災地支援についてこれまでもご尽力いただいておりますこと感謝申し上げます。我が国は既に人口減少局面にはいり、高齢化が急激にすすむ中、特に地方部では今後の地域の将来像について懸念な模索がつづいております。国、地方とも極めて厳しい財政状況がつづいており、政治経済を取り巻く状況も先行きについて不透明な部分が多くなっております。

被災地の着実な復興に向けての歩みが少しでも前進することを祈念いたしますとともに、今年一年、またいろいろな形でお世話になることと思いますがどうかよろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

被災地の着実な復興に向けての歩みが少しでも前進することを祈念いたしますとともに、今年一年、またいろいろな形でお世話になることと思いますがどうかよろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

### 新たな年を迎えて

環境省自然環境局長 渡辺 綱男



新年明けましておめでとうございます。また、社団法人日本造園建設業協会が創立40周年を迎えられたこと、心よりお

祝い申し上げます。昨年は、東日本大震災が発生し、甚大な被害がもたらされました。豊かな恵みを与えてくれる自然が、時

に大変厳しい災害をもたらすということを私たちは改めて認識いたしました。一方で、津波により大きな被害を受けた沿岸域の生態系

において、早くも生きものや地形が戻りつつある状況も報告されています。大きな被害を受けた施設や海岸林などが多数あり、今後の早急な復旧が待たれる一方で、生態系の力強い回復力を実感しています。

環境省では、陸中海岸国立公園の公園施設の復旧を進めると同時に、三陸沿岸の自然公園をひとつの新たな国立公園に再編成し、「三陸復興国立公園(仮称)」を創設することを目指してビジョンの策定を進めています。沿岸域に広がる豊かな

な自然や景観を活かして、水産業などの第一次産業との連携も図りつつ、地域の復興の一助となるような国立公園づくりを地域の皆さんと共に進めていければと考えています。

一昨年には、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、新たな世界目標となる「愛知目標」や遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する「名古屋議定書」が採択されました。こうした動きを受けて、生物多様性民間参画イニシアティブへの参画企業

が増加し、生物多様性自治体ネットワークが設立されるなど、各方面での動きが加速されてきているところ です。愛知目標は「人と自然の共生」を長期ビジョンに掲げ、国土環境の再生を求めています。その実現のためには、国のレベルだけでなく、地方自治体や企業、民間団体など様々なレベルでの取り組みが広がっていくことが欠かせません。

災害リスクの低減と国土環境の再生を両立させていくためには、生態系の働きを活かしたエコロジカルな

### 震災復興と新たな国土創成に期待される造園力

(社)日本造園学会 会長 増田 昇



新年明けましておめでとうございます。また、創立40周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。さて、昨年の3月11日には未曾有の東日本大震災が発生し、津波によって甚大な被害がもたらされました。被害は東日本全域という広域に及び、被害の様相も多岐に渡ったことに加え、原発問題もあり復興の遅れが指摘されてきました。復興計画の中心が基礎自治体に移ろうとする中で3次補正予算も通過し、復興への動きが本格化しつつあります。日本造園学会も「ランドスケープ再生を通じて復興支援」を掲げ、貴協会のご支援やご協力も頂きながら積極的な調査活動や各種の提言も行ってきました。復興に際して、「場」を読み解き、

読み解いた内容に文脈を与え、豊かな暮らしを育む多様な「生活の場」を創造するという「造園の力」が求められています。被災地域の一日も早い復興が望まれますのは言うに及ばませんが、自然災害へのリスクが高まる中で安全で安心のあり暮らしの実現が強く求めら

れています。また、従来の物質的な豊かさから「真の豊かな生活」も求められています。復興に際しては単なる復旧だけではなく、我が国の今後の国土創成のモデルとなるような計画が強く求められます。自然に寄り添い、自然の驚異をいなしつつ、自然の恵みを最適

化させる「自然との共生技術」ともいえる造園力をいまこそ発揮しなければなりません。新たな国土の創成、明日に向けて、これまでの学会との連携を更に強めさせていただき、力強い一歩を踏み出そうではありませんか。皆様方がこれまで先人から継承され、発展させてこられた日本文化の象徴ともいえる造園力を大きく社会に向けて発信し、貴協会は言うに及ばず造園界が大きく発展することを願っています。

### 協会と業界に依存大であるが

全国高等学校造園教育研究協議会 理事長 大室 徳治



新年明けましておめでとうございます。また、創立40周年おめでとうございます。貴会及び、会員の皆様には日頃からご支援ご協力いただき誠にありがとうございます。

私ども、「全国高等学校造園教育研究協議会」は、造園教育を行う高校を以って組織し、高校造園教育の充実及び発展に寄与することを目的としています。

協と連携を深めながら、造園教育に対して40年間を歩んできたように思えます。現在も、デザインコンクールにおいて格段のご配慮いただいております。また、

発足当初から貴会(日造

### 賀 春

社団法人 日本造園建設業協会

副 会 長

藤 卷 司 郎

佐 々 木 吉 和

和 田 新 也

林 輝 幸

高 梨 雅 明

磯 部 英 久

伊 藤 啓 昌

宇 坪 真 澄

梅 川 真 澄

大 塚 嘉 七

大 塚 守 貞

大 塚 保 康

大 塚 貞 一

小 川 陽 一

加 勢 充 晴

鬼 頭 慎 一

木 上 正 貢

久 保 和 男

熊 谷 洋 一

近 藤 公 夫

酒 井 信 一

坂 上 信 昭

櫻 井 正 昭

笹 井 正 昭

下 地 浩 之

下 地 浩 之

杉 本 正 美

須 磨 佳 津

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

総支部長

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴

監 事

北海道 加勢 充晴

北海道 加勢 充晴



新年を迎えて

(一財)日本造園修景協会 会長 杉尾 伸太郎



明けましておめでとう御座います。創立40周年を迎えられたことにつきまして、心からお見舞い申し上げます。

皆様方に於かれても大層な御苦労が有った事が拝察され心からお見舞い申し上げます。

さて、今年の造園界にも他の産業分野と同じく決して安易な道が見つけられるとは思えませんが、気候変動のリスクをチャンスに変えて行くような技術開発が必要でしょうし、17世紀に亘ると言われる日本庭園の

技も学び直す事も大切な事です。

なお、日本造園修景協会としては、一般財団法人化と同時に、新たな活動を企画し、必要とあらば組織の新たな再構築も他の団体にも呼びかけてでも行うべく、有路信委員長のもと「協会のあり方検討特別委員会」を立ち上げさせて頂き、研究を重ね、年度内には一定

の見通しを出して頂く事になっていきます。その間、昨年の3月震災の前日2日間、アメリカの統一造園家の組織である全米造園家協会ASLAの会長ジョナソン・ミューラー氏をお迎えして、講演をお願いし、委員の皆様を中心に、氏とディスカッションができたに成果を上げる事が出来ました。

造園業界の中核である貴団体と、個人の団体である日本造園修景協会との連携は、今後の造園界の発展に少なからず寄与出来るものと思っております。

皆様には清新の春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

とりわけ、造園の持つ魅力や能力、その効用について改めて問われている現在は、わが造園業界として、これまで以上に幅広い技術・知識を研鑽して、横の絆を強化し協力しながらの緑による復興支援をはじめ、日造協が提唱する「造園力」を広く社会にアピールしながら、その活動領域を拡げつつ業界関係者が誇りと自信、そしてやりがいを感じられる環境づくりを展開しなければならぬ時

代となっており、横の絆を強化し協力しながらの緑による復興支援をはじめ、日造協が提唱する「造園力」を広く社会にアピールしながら、その活動領域を拡げつつ業界関係者が誇りと自信、そしてやりがいを感じられる環境づくりを展開しなければならぬ時

に即応できる態勢の構築と、様々な機会を捉え、地域の環境整備や国民生活を支え、地球環境にまで係わる造園業の活動範囲を今更以上大きく広げていく必要があります。

創立40周年を迎えられた日造協は、広く社会に認知される団体としての自覚のもと、社会の要請に応える諸施策を推進し、希望あふれる産業と認められるよう、ともに輝かしい造園業界の確立に努力して行きましょう。

本年からはいよいよ震災復興事業も本格化すると思いますが、被災を契機に高

緑のふもと復興の担い手として

(財)日本緑化センター 会長 鈴木 正一郎



日本造園建設業協会の皆様には、気持ちも新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

去年は、東日本大震災という未曾有の大災害を前に無力感を味わうとともに、復興に向けた人々の力強い営みに感動を覚えた年でありました。

私もセンターは日本造園建設業協会及び日本造園学会とともに、岩手県陸前高田市の「高田松原」において何万本の中たつた一本残った「希望の松」の保全事業にあたりました。津波による幹の損傷に加え、地盤沈下による塩分を含んだ地下水の影響など予断を許さない状況にあることは皆様ご存じのとおりですが、

水位低下を図る障壁設置、真水注水による除塩、幹や地表面の養生など可能な限りの作業を行いました。

一連の作業の中で、貴会員である日本造園建設業協会岩手県支部の皆様は、目を見張るものがありました。養生作業はもとより関係自治体や関係機関との連絡調整にと、個々の会社

現場にいる一人一人がこうした無私の精神で立ち向かうことにより、長い歳月がかかろうとも立派な松林が復活し、緑のふもとがよみがえるものと確信しております。

また、環境緑化のプロ集団として常に時代のニーズを的確に据え、社会の変化

の業務をなげうって地元の皆様さん、さらには全国の皆さんの希望の火を消すまいと立ち働く姿は頭の下がる思いがしたとの報告を受けております。

緑化という生き物を扱う現場にいる一人一人がこうした無私の精神で立ち向かうことにより、長い歳月がかかろうとも立派な松林が復活し、緑のふもとがよみがえるものと確信しております。

また、環境緑化のプロ集団として常に時代のニーズを的確に据え、社会の変化

造園・環境緑化産業界の発展にむけて

(社)日本植木協会 会長 水城 清志



新年明けましておめでとうございます。

貴協会は、創立40周年を迎えられたとのこと誠にめでたうございます。これまでの造園・環境緑化産業

界の発展にご尽力されてきたことに敬意を表しますとともに心から感謝いたします。

長引く経済の不況が続く

中、ヨーロッパ諸国の財政悪化や我が国の東日本大震災が追い打ちをかけ、私たちが緑化に関わる業界全体の経営環境はますます厳しい状況が続いています。

一方で、地球規模の環境問題が大きな課題となっており、早急な対応が求められる中で、緑は地域の環境や国民生活を支える社会資

料として、その果たすべき役割は従来にも増して高まりつつあり、緑の量より質を重視した豊かな社会を構築するため、造園・環境緑

化産業界がその結束を図り、活動領域を拡大していく必要があります。

そのためには、貴協会のこれまで以上の先導的役割

に期待するところ大であり、今後、更なる発展を祈念するところです。

ともに希望ある業界に

(社)日本造園組合連合会 理事長 白井 昇



皆様には清新の春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

とりわけ、造園の持つ魅力や能力、その効用について改めて問われている現在は、わが造園業界として、これまで以上に幅広い技術・知識を研鑽して、横の絆を強化し協力しながらの緑による復興支援をはじめ、日造協が提唱する「造園力」を広く社会にアピールしながら、その活動領域を拡げつつ業界関係者が誇りと自信、そしてやりがいを感じられる環境づくりを展開しなければならぬ時

に即応できる態勢の構築と、様々な機会を捉え、地域の環境整備や国民生活を支え、地球環境にまで係わる造園業の活動範囲を今更以上大きく広げていく必要があります。

創立40周年を迎えられた日造協は、広く社会に認知される団体としての自覚のもと、社会の要請に応える諸施策を推進し、希望あふれる産業と認められるよう、ともに輝かしい造園業界の確立に努力して行きましょう。

本年からはいよいよ震災復興事業も本格化すると思いますが、被災を契機に高

の施工及び管理技術のみならず、新しく植栽基盤及び街路樹剪定技術の確立と業界会員への技術習得を徹底され、全国的に高品位の維持に務めておられること、大いなる敬意を表するものであります。このことは、せっかく長い歴史と先輩方が築かれた造園力学の喪失でもあります。

失礼なことを申し上げますが、貴協会の益々のご発展と関連する私共への御指導、御鞭撻を切にお願い申し上げます。

造園界のパワーを「環境」に結集する年に

(財)ランドスケープコンサルタンツ協会 会長 大塚 守康



創立40周年、おめでとうございます。

大荒れに荒れた昨年に変えて、今年は穏やかな年であることを願うばかりです。しかしながら、世情とはいえ造園界の各団体は規模の縮小を迫られる状況にあります。このときこそ、お互い一致団結して造園界のパワーを結集し、社会に存在を示すべきでしょう。

しかし、このようなことは、常に気持ちや掛け声に終始してしまいがちです。

それを現実社会に動かすパワーとするためには、各界に共通した目標を定めるべきです。造園界にとってそれは「環境」でしかありえません。かつては国が方針を定め、それに従った活動をしてきましたが、今では私たち自身がそれを決めなければいけません。これまで造園界に与えられた領域を超えて、社会の基盤全体を環境に向けて動かしていくためには、どのような策を練り行動したらよいのか、造園界全体で頭をひねらなくてはなりません。

日造協はなんといつても造園界最大の勢力を誇る全国組織です。そこが中核となつて本気で動けば、社会を振り向かせる力を発揮できるはず。緑あふれる国土と美しい都市の再生に向けて、パワーを結集するスタートの年となることを願っています。

昭和46年創立時は、第3次佐藤内閣時代、次いで田中角栄内閣が列島改造計画を強力に推進し、建設業の躍進を迎えた時期であり、造園業界も一丸となつて全国組織を作り上げ、建設業法での造園工業業も承認され、力強い船出をなされました。私共もうらやましく思っております。

翌昭和47年に都市公園等整備5箇年計画が閣議決定し、以来建設省公園緑地課の御指導の下、関連各諸団体及び学界との連帯も太くされての造園技術の確立は、古来より続く樹木、草花、地被植物、石、水等々

新生 日造協への期待

(一社)日本運動施設建設業協会 代表理事 坂内 善次郎



創立40周年誠におめでとうございます。

昭和46年創立時は、第3次佐藤内閣時代、次いで田中角栄内閣が列島改造計画を強力に推進し、建設業の躍進を迎えた時期であり、造園業界も一丸となつて全国組織を作り上げ、建設業法での造園工業業も承認され、力強い船出をなされました。私共もうらやましく思っております。

翌昭和47年に都市公園等整備5箇年計画が閣議決定し、以来建設省公園緑地課の御指導の下、関連各諸団体及び学界との連帯も太くされての造園技術の確立は、古来より続く樹木、草花、地被植物、石、水等々

の施工及び管理技術のみならず、新しく植栽基盤及び街路樹剪定技術の確立と業界会員への技術習得を徹底され、全国的に高品位の維持に務めておられること、大いなる敬意を表するものであります。このことは、せっかく長い歴史と先輩方が築かれた造園力学の喪失でもあります。

失礼なことを申し上げますが、貴協会の益々のご発展と関連する私共への御指導、御鞭撻を切にお願い申し上げます。

失礼なことを申し上げますが、貴協会の益々のご発展と関連する私共への御指導、御鞭撻を切にお願い申し上げます。

新たな年を迎えて、日造協に期待すること

(社)日本公園施設業協会 会長 栗田 嘉嗣



新年あけましておめでとうございます。

昨年は何といつても3月11日に発生した東日本大震災による未曾有の被害に見まわれ、復興にはまだまだ遠いですがその支援、復旧に全国民が一体となつて取り組んできた1年だったかと思われまふ。新年にあたり被災地の一日も早い復興を祈念する次第です。

さて、(社)日本造園建設業協会におかれましては、創

立40周年を迎えられ心よりお慶び申し上げます。顧みますと私どもの協会が昨年度社団法人化20周年を迎えたばかりですが、20年もの先輩法人として造園業界の見事な組織・事業運営に邁進してこられた貴協会の実績には輝くものがあり、我々もお手本として追隨して参つたところです。

本年からはいよいよ震災復興事業も本格化すると思

いますが、被災を契機に高

い防災機能を有しかつ地球環境にも配慮した先導型の新しい復興まちづくりの実現が求められております。その分野において、植物や自然を扱う造園界のこれまで培ってきた技術力を遺憾なく発揮するとともに、復興を通じてさらなる造園技術の研鑽に励まれまして、今後のまちづくりの大本となるような成果を遂げられることを期待して、新年のご挨拶といたします。

